

「友の会 新年お楽しみ会」

1月16日（金）、中央図書館視聴覚室で新年会が行われました。森田館長はじめ図書館職員とそのお子さん方、友の会会員 34名の参加がありました。中央のテーブルに並べられた盛りだくさんのオードブルやお寿司などをいただきながら、楽しい会話に花を咲かせました。

会員と図書館職員からご寄付いただいた品々でバザーが行われ、会の終わりに売り上げ金額が発表されると、参加者から大きな拍手が上がりました。今回も、会員である石塚さんのハーモニカの演奏にあわせて、全員で歌を歌いました。年2回行われるお楽しみ会は、図書館職員と会員との貴重な交流の場です。次回のお楽しみ会もたくさんの参加をお待ちしています。



4月の友の会デー

* 開始時間がいつもと違います

「館長を囲む会」

森田館長にこれからの浦安市立図書館についてお聞きします

4月25日（土） 10:00～ 第一集会室

「ハイジ」に参加して

読書会のテキスト「ハイジ」を読んで山の美しさ、もみの木の音に感動するハイジに、アルプスの世界に誘われました。

おばあさまの「悲しみ辛い事を神様にお話すれば救いの手をのべてくださる。待つよ、後からずっといいように取り計らってくださる」という話に、待つ事は希望なのだとしみじみ感じました。人は出会った人に授けてもらえる。こどもは人との関係において自分を見い出していくと聞いたことがあります。パウル・ハイの挿絵も素敵です。（A・M）



2月友の会デー（2月28日）

初めに島本司書（社会科学分野担当）に書庫棟展示「宮本常一―旅に生きた民俗学者―」の解説をしていただきました。その後小柳さんから、作品についてお話をお聞きしました。



小柳なほみさんを囲む会

『最後の仕事』を読んで

高齢者として私も、日頃自分なりに、いろいろ考えたり、体験から感じている事がありますので、主人公の理恵が仕事で大正生まれの入院患者を取材した原稿や母の入院の際の出来事に描かれた大事な問題提起や意義深さを、素早く受けとめる事が出来ました。病院の態勢問題等については、最近ドラマやマスコミでいろいろと話題になっています。この作品にも、医師と看護師に関することや、病院に都合よく扱われている患者の実態、その患者に特に余命短い老人が多い事、医師と患者は本来対等であるはずという主張が書かれており、誠に御尤。また、延命を拒否すると医療機関に提示した人の95%が意思を尊重されているということも初めて知りました。延命治療に対する医師と家族との話し合いは、お互い後悔のないように願いたいです。

入院した母に対する家族それぞれの愛情表現や行動には、各自の立場や気持ちが良く表れています。同じ考えでなくても、家族の絆で結ばれた者たちが、初めの答えを出し、次のステップで最後の答えを出す…

母が持ち続けた家族に対する深い愛情と奉仕の精神は、やがて娘の理恵にも伝わります。ラストでは「夫の最後の愛の贈り物」と、母の温かい心が感じられ、純白の雪を背景に、母のふくよかな笑顔を想像して胸が熱く、感無量になってしまいました。（E・I）

第3回子どもの本の読書会

子どもの本の読書会は、中央図書館開館 25 周年記念事業『詩と物語を読む会』の講師斎藤惇夫氏のお奨めである、小学校の卒業までに読んでほしい物語を順にテキストに取り上げて、隔月の第3水曜日の 10 時から 12 時まで、中央図書館の集会室で行っています。第1回(10月15日)『宝島』で始まり、第2回(1月21日)『ハイジ』、3月18日の第3回は『注文の多い料理店』でした。

『注文の多い料理店』の著者は、19世紀末に岩手県花巻市に生まれ、37歳で生涯を閉じた宮沢賢治です。子どもの頃、『注文の多い料理店』というタイトルのネーミングにとっても興味をそそられました。「どんな料理が出てくるのか?」と、ハラハラ、ドキドキ、ワクワクして読んだものです。「注文」には相反するふた通りの意味がこめられていたのです。そこにこの物語の面白さがあります。物事を自分に都合の良いようにだけ捉えたり、一面的にしか見ることの出来ない思考のあり方や事態に対する痛烈な風刺が込められていたのです。

賢治が専門に学んだ当時の最先端科学(農芸化学)の成果や考え方が作品世界に見事に生かされ、反映されていて、単なる幻想とは違った科学的な根拠に基づいた種や仕掛けがあちこちにちりばめられています。

「優れた作品というものは読者である読み手の成長に応じて、作品世界もまた成長するもの。」に同感です。大人になって読み返してみると、毎回、新たな驚きや発見に出会い、喜びと醍醐味を味わっています。

(舟田)

12月友の会デー

12月26日、友の会デーの活動の前に新入会員募集のパンフレットを中央図書館のエントランスにて配りました。

年末の大変お忙しい中、書庫棟展示について、木村司書(語学・文学分野担当)に伺いました。21年1月開催の中央図書館開館25周年記念講演会に先立ち、講師である椎名誠氏の作品と椎名氏についての資料を紹介していただきました。

その後、ブックスタート事業の絵本の包装をしました。(S・O)



3月友の会デー

平成20年度の活動として、磯野元館長を講師にお迎えした総会、浦安市立中央図書館開館25周年記念事業「図書まつり」への参加、市民まつりでのブックプレゼントのお手伝い、友の会デー、図書館見学、子どもの本の読書会等を振り返りました。また、今後の友の会デーでの活動、運営等についても話し合いました。その後、昨年3月に行った友の会15周年感謝の会のDVDを見ながら、ブックスタート事業の絵本の包装をしました。



これからの友の会

4月25日(土)

10:00~12:00

第一集会室

館長を囲む会

*森田館長にこれからの浦安市立図書館についてお聞きします

5月20日(水)

10:00~12:00

第一集会室

子どもの本の読書会

*テキスト『ドリトル先生アフリカゆき』岩波書店

5月23日(土)

13:00~16:00

第16回定期総会

視聴覚室

記念講演

*市川図書館友の会 元会長 押樋良樹氏

図書館コミュニケーションデザイナー



問い合わせ先：浦安市図書館友の会 服部アキ

047-355-6195

《 編集担当：奥 祥子 》